

家庭の地震対策

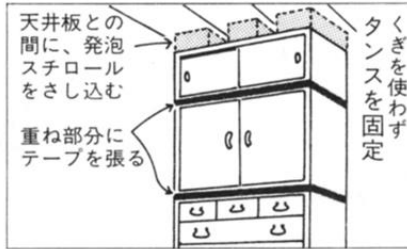
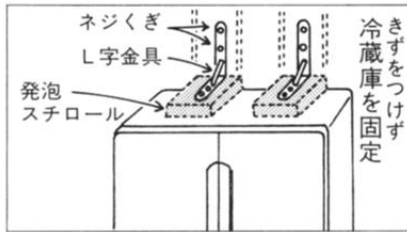
家財道具を固定する

地震に対する備えは万全ですか？  
「地震が起きる前にすべきことは何か」を考える必要があります。医療に予防があるように、防災にも命を守るための「予防」が大切です。住宅の健康診断を受け、弱いところは補修する

当然費用はかかりますが、命と引き替えにはできませんから。  
津波や火災といった二次災害を除けば、地震でなくなる人は、建物や家財道具の下敷きになるケースがほとんどです。阪神・淡路大震災でも「テレビやタンスが二〜三台も飛んできた」「いきなり天井が落ちてきた」など、ふだんの生活で使っているものが、一瞬にして凶器に変わってしまうのです。つまり、家そのものももちろん、タンスや本棚、テレビといった家財道具が、揺れが取まる間、あるいは安全な所へ避難するまで倒れてこなければ、それだけ命が助かる確

奥さん…  
ちょっと お耳を！

率が高くなるのです。では、そのヒントをイラストで見てください。



こうしたほんのちよつとの工夫が、命を守るポイントになってきます。地震はいつ、どこで起こるか分かりません。ですから、地震に対する備えも、生活時間の長い場所を優先したり、寝ているときは無防備でするので寝室から始めたり、あるいは一つの部屋だけは安全な空間にしたり、それぞれの家庭の状況に応じて考え、実行に移してください。

手術と麻酔

この刺激が「疼痛の記憶」として術後の痛みを増していたのです。  
現在では、開腹手術(例えば胃腸の手術)に際しては、全身麻酔に硬膜外麻酔を併用するのが一般的です。これは、手術操作による刺激が「疼痛の記憶」となるのを予防し、術後の痛みの軽減にも役立っています。  
患者さんが麻酔から醒めたとき、いつもと変わらない穏やかな表情をしているのが、私たち麻酔科医の願いでもあります。

健康一番



今月のドクター  
蒲郡市民病院 麻酔科  
板坂 安修 医師

「手術を受けたのだから、痛いのは当たり前だ」という考え方は、ここ数年の間に変わりつつあります。  
従来は、全身麻酔さえ行えば、手術中、患者は意識がないし、痛みも感じない、そして、術後の痛みには鎮痛剤の臨時投与でよいという考えが主流をなしてきました。しかし実は、よほど深い麻酔でないかぎり、手術中の痛み刺激が中枢神経に達しているのです。